

～ 食と緑が支える豊かな暮らしをめざして ～

食と緑の豊田加茂地域レポート 2026

－ 2025 年度の実施報告と 5 か年の総括 －



2026年9月

愛知県豊田加茂農林水産事務所



表紙写真の説明

【農業改良普及課】 かぶせ茶の手摘み （豊田市豊栄町）	【林務課】 あいち木づかいフェアで 森ずきんちゃんと撮影 （みよし市三好町）	【農政課】 矢作川で体験放流 （豊田市小渡町）
【森林整備課】 タワーヤードを用いた集材 （豊田市牛地町）	【建設課】 ため池耐震工事 （みよし市打越町）	

レポート中、「豊田加茂農林水産事務所の管内（豊田市、みよし市）」は「管内」としました。「農業協同組合」は「農協」としましたが、固有名称については「JA」と表記しました。

単位は、下記の表記としました。

「長さ」・・・メートル「m」、キロメートル「km」

「面積」・・・アール「a」、ヘクタール「ha」、
平方メートル「㎡」、平方キロメートル「km²」

「体積」・・・立方メートル「m³」

「重さ」・・・キログラム「kg」、トン「t」

目 次

I 食と緑の地域レポート 作成の趣旨	2
II 豊田加茂地域重点推進プランの施策体系図	3
III 2025年度の主な取組	
目指す姿	
① 新規就農者の確保	4
② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成	5
③ 戦略を推進する新たな取組と拡充	6
④ 新技術及び優良品種・品目の導入	7
⑤ 施設の更新整備と耕作放棄地の適切な保全	8
⑥ 高性能林業機械による木材生産量	9
⑦ 林道整備・保全延長	10
⑧ 街道事業者の取組内容の紹介等	11
⑨ あいち森と緑づくり事業実施箇所における地域住民等による森林保全活動	12
⑩ 小中学生等による体験放流を通じた河川への理解醸成	13
⑪ 農業用排水機場・排水路・ため池の耐震化等により守られる面積	14
⑫ 枝下用水幹線水路の耐震化により守られる面積	15
⑬ 治山施設の整備により山地災害に対する防災機能向上が図られる面積	16
IV 重点推進事項別の数値目標達成状況及び5か年の総括	17
＜ 地域トピックス ＞	
○ 農村型地域営農組織（農村 RMO）の取組について	20
○ 緑色 LED 照射によるシンビジウムノミのヤガ類防除	21
○ 豊田市内の小学校で枝下用水の出前授業を実施しました	22
○ あいち木づかいフェアを開催しました	23
○ 林業現場における安全確保と迅速な救助体制の強化のため、消防署と連携し、レスキュー訓練を実施しています	24

I 食と緑の地域レポート 作成の趣旨

愛知県では、2004年4月に「食と緑が支える県民の豊かなくらしづくり条例」を施行し、県民との協働・連携に努めながら、安全で良質な農林水産物の持続的な生産・供給の確保や、森林等の有する多面的機能に対する県民の理解促進と活動の推進に向けた様々な施策に取り組んできました。

また、2020年12月には、本条例の理念の実現に向けた第4期計画となる「食と緑の基本計画2025」を策定・公表しました。これを受け、豊田加茂地域においても、地域の特色や実情を踏まえ、2025年度までの目標やその達成に向けた取組を示した「食と緑の基本計画2025 豊田加茂地域重点推進プラン」を策定し、その実現に向けて各種施策を総合的かつ計画的に推進してきました。

この地域レポートは、地域推進プランの進行管理の一環として、施策目標の達成状況を把握するとともに、今後の取組の方向性について関係者の共通認識を深め、地域の実情を踏まえた効果的かつ適切な事業推進を図るための資料として、2025年度（令和7年度）の取組状況及び計画期間5か年の総括（目標の達成状況）を中心にまとめたものです。

Ⅱ 豊田加茂地域重点推進プランの施策体系図

「食と緑が支える県民の豊かな暮らし」の実現に向けて

柱1：生産の柱

持続的に発展する農林水産業の実現

(1) 担い手の確保・育成

- ① 新規就農者の確保
- ② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成

(2) 産地戦略による生産力パワーアップ

- ③ 戦略を推進する新たな取組と拡充
- ④ 新技術及び優良品種・品目の導入

(3) 農業基盤整備と地域営農の推進

- ⑤ 施設の更新整備と耕作放棄地の適切な保全

(4) 資源を生かす林業の実現

- ⑥ 高性能林業機械による木材生産量
- ⑦ 林道整備・保全延長

柱2：暮らしの柱

農林水産の恵みを共有する社会の実現

(5) 活力ある農山村の実現

- ⑧ 街道事業者の取組内容の紹介等
- ⑨ あいち森と緑づくり事業（里山林整備）実施箇所における地域住民等による森林保全活動
- ⑩ 小中学生等による体験放流を通じた河川への理解醸成

(6) 農山村の防災・減災対策の推進

- ⑪ 農業用排水機場・排水路・ため池の耐震化等により守られる面積
- ⑫ 枝下用水幹線水路の耐震化により守られる面積
- ⑬ 治山施設の整備により山地災害に対する防災機能向上が図られる面積

Ⅲ 2025年度の主な取組

1 持続的に発展する農林水産業の実現

(1) 担い手の確保・育成



目指す姿 ① 新規就農者の確保 毎年 15 人

農業改良普及課

【施策の趣旨】

将来にわたって農産物を安定的に供給できる農業構造を実現するため、農家の後継者を始め、農業法人への雇用就農や定年帰農を含む新規就農、企業やNPOの農業参入により新しい担い手を幅広く確保し、定着を図ります。

【具体的な取組内容】

新規就農説明会を6月に開催し、27人の参加がありました。また、豊田加茂地域への新規就農希望者15人から就農についての個別相談があり、延べ21回対応しました。

これらを通して就農が具体化した9人に、栽培品目ごとの収量や販売単価等の情報を提供するなど相談を重ねて、青年等就農計画の作成を支援しました。

また、市役所、農協等と連携し、15人の就農を支援しました。

【取組の成果】

《 新規就農者数 24人 》 ※5か年の累計：81人



新規就農説明会

就農形態内訳

就農形態	人数
新規学卒	3
Uターン	4
新規参入	17
(独立自営)	12
(雇用就農)	5
合計	24

住所内訳

住所地	人数
豊田市	16
みよし市	4
その他	4
合計	24

【今後の取組】

引き続き、市や農協等と連携しながら、個別相談により新規就農希望者の計画的就農を支援し、定着に取り組めます。

目指す姿 ② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成
毎年 12 人

森林整備課

【施策の趣旨】

本格的な利用期を迎えた森林資源を活用し、今後増加が見込まれる木材需要に対応するため、林業を担う人材の確保と林業技術者の育成を進めます。

【具体的な取組内容】

林業を担う人材の確保のため、公益財団法人愛知県林業振興基金等と連携して、一般の方を対象とした林業の仕事ガイダンスと林業体験及び作業見学ツアーを各 1 回（延べ 30 人）実施しました。

また、林業高校生を対象とした木材生産体験と見学会を各 1 回（延べ 50 人）実施しました。

この他、林業経営体の林業技術者の育成のために森林施業への地形データ等の活用支援や植栽研修、安全作業の順守のための巡回指導等を延べ 100 回実施しました。



高校生の見学会



若手作業員に対する植栽研修

【取組の成果】

《 新規林業就業者数 17 人 》 ※5か年の累計：92人

就業形態内訳

就業形態	人数
新規学卒	4
再就職	13
合計	17

住所内訳

住所地	人数
豊田市	6
みよし市	0
県内（管外）	8
県外	3
合計	17

【今後の取組】

引き続き、関係機関と連携して、新規林業就業者の確保に努めるとともに、林業技術者の育成や安全作業の定着に取り組めます。

(2) 産地戦略による生産力パワーアップ



目指す姿 ③ 戦略を推進する新たな取組と拡充 5 か年で 10 件

農政課

【施策の趣旨】

高齢化による担い手不足などの課題を抱える産地において「人」「農地」「生産技術」「施設等」「販売」の 5 つの視点から産地戦略を策定し、関係機関と連携しながら補助事業等を活用して具体的な取組を推進することで産地の維持発展を図ります。

【具体的な取組内容】

1 産地戦略の見直し

部門別会議等により産地戦略見直しを 2 件、支援しました。また、全産地の進捗状況確認を行いました。

2 補助事業による産地戦略の取組支援

補助事業を 2 件、支援しました。

【取組の成果】

《 新たな取組と拡充 4 件 》

(内訳) ※5か年の累計：28件

1 産地戦略の見直し 2件

- (1) 水稻・麦・大豆・飼料作物（豊田市）
- (2) 水稻・麦（みよし市）

2 補助事業による産地戦略の取組 2件

- (1) 桃・梨・柿（豊田市）
 - ・あいち型産地パワーアップ事業
 - スピードスプレーヤの導入
- (2) いちご（豊田市）
 - ・あいち型産地パワーアップ事業
 - 自走式草刈り機
 - 夜冷ハウス新設工事
 - 自動谷換気装置

【今後の取組】

引き続き、生産者（組織）、地域農業再生協議会、農協、市と連携し、会議の開催等により補助事業の活用や具体的な取組への支援を積極的に行っていきます。

産地戦略一覧と事業実施

No.	品目	産地	策定年度	見直年度	事業実施年度
1	なす	豊田市・みよし市	2019	2022	2021 2021
2	はくさい	豊田市・みよし市	2020	2022	2023
3	桃・梨・柿		2019	2024	2021 2022 2024 2025
4	いちご	豊田市	2019	2024	2022 2023 2025
5	茶	豊田市	2019	2024	2022 2023 2024
6	水稻・麦・大豆・飼料作物	豊田市（平坦部）	2020	2023 2025	2021 2023 2024
7	水稻・麦	みよし市	2020	2025	2022 2023 2024
8	ぶどう	豊田市	2024	-	-



導入されたスピードスプレーヤ

目指す姿 ④ 新技術及び優良品種・品目の導入 5 か年で4件

農業改良普及課

【施策の趣旨】

ロボット技術や I C T（情報通信技術）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現できる技術の選定と導入を支援します。

野菜、果樹等で気候変動や消費者ニーズに対応できる優良品種の導入を支援します。

【具体的な取組内容】

1 J Aナス部会

篤農家技術を動画で記録し、新規部会員の指導に生かす取組を支援しました。

2 J Aスイカ部会

携帯端末の求人アプリを活用した短期的な労働力補強の取組を支援しました。

3 シンビジウム生産農家

夜間の緑色 L E D 光照射によるヤガ類防除効果の検証を支援しました。

【取組の成果】

《 新技術の導入 3 件 》 ※新技術、優良品種導入
(内訳) 5 か年の累計: 1 3 件

1 ナス篤農家技術の動画活用により新規部会員は技術の理解を深め、習得を早めました。

部会は、動画活用を若手育成用の技術伝承プログラムとして位置付けて導入しました。

2 携帯端末で農業用求人アプリを活用することでスイカの授粉作業等の短期的労働力を効率良く確保できることがわかりました。

労働力補強の手段として求人アプリ活用が有効であることを部会内で確認しました。

3 緑色 L E D 光照射でシンビジウムのヤガ類による食害が減少し、成品率が向上しました。

検証した農家は、緑色 L E D 光照射がヤガ類の防除に有効であることを確認しました。

【今後の取組】

引き続き、新技術及び優良品種・品目の導入に向けて現地実証と支援を行います。



動画活用によるナス篤農家技術の伝承



農業用求人アプリの活用による労働力補強



緑色 LED を設置したシンビジウム栽培ハウス(点線丸内は LED 装置を示す)

(3) 農業基盤整備と地域営農の推進



目指す姿 ⑤ 施設の更新整備と耕作放棄地の適切な保全
5か年で59ha（つくば地区）

建設課

【施策の趣旨】

担い手への農地の集積・集約化や生産コストの削減を促進するため、生産性の向上を図る農地の整備を推進するとともに、将来にわたって耕作放棄地の拡大防止を図り、農地の生産性を維持していくために農業水利施設などの適期、適切な整備・更新を推進します。

【具体的な取組内容】

農地環境整備事業

豊田市の中山間地域における継続的な営農のため、つくば地区（旧旭町）・下山地区（旧下山村）・大野瀬地区（旧稲武町）、西中山地区（旧藤岡町）の4地区で、老朽化した農業水利施設（用水路・排水路）の整備・更新、暗渠排水等の工事及び設計を行いました。

【取組の成果】

つくば地区の工事進捗率は90%です。完了工期が延伸したため、実績の計上は、地区完了後になります。



工事前の排水路（つくば地区）

【今後の取組】

引き続き、地区完了に向けて土地改良区や地元工区等の関係者と調整しながら事業を推進し、農業生産基盤の整備工事を行っていきます。



整備された排水路（つくば地区）

(4) 資源を生かす林業の実現



目指す姿 ⑥ 高性能林業機械による木材生産量 40 千 m^3 ※

森林整備課

※ 2025年度の生産量

【施策の趣旨】

高性能林業機械を活用した木材生産の効率化に取り組み、木材の安定供給を推進します。

【具体的な取組内容】

木材生産の効率化の前提となる施業の集約化のために、森林組合等が行う森林経営計画の策定を支援しました。(計画策定面積：766ha)

林業経営体による高性能林業機械の導入計画の策定や木材生産現場における効率的な運用を指導しました。

また、利用期を迎えた森林資源を活用するため「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業による木材生産を促進するとともに新たな植栽と獣害対策に対する助成(あいち森と緑づくり事業)を行いました。

主伐：10,86ha

植栽：10,43ha

獣害対策：7,337m



タワヤーダによる集材状況

【取組の成果】

《 高性能林業機械による
木材生産量 46,000 m^3 》

管内林業経営体の保有する高性能林業機械の推移 単位：台

機械名	機能	2020	2025	増
スイングヤーダ	材の掴み＋架線集材	10	12	2
タワヤーダ	支柱を備えた架線集材	0	1	1
フォワーダ	材の掴み＋運材	8	13	5
プロセッサ	材の掴み＋造材	10	9	減1
ハーベスタ	立木伐倒＋造材	2	2	0
フェラーバンチャ	立木伐倒＋掴み	3	4	1
計		33	41	8

【今後の取組】

引き続き、林業経営体が行う木材の生産性を高める取組に対して、支援・指導します。
特に主伐再生林の推進を図ります。

【施策の趣旨】

木材生産や間伐等の森林整備を効率的に実施するため、林道を整備・保全します。

【具体的な取組内容】

県営事業による林道開設を行うとともに、豊田市が行う改良・危険地対策・舗装工事に対し、単独県費補助事業により支援しました。

県営の代行林道事業は「田平沢平瀬線」と「河上瀬柏洞線」の2路線において、開設工事を進めました。

また、豊田市が事業主体となり実施する単独県費補助の小規模林道事業は14件、14路線に対し、補助金を交付しました。

【取組の成果】

《 林道の整備・保全延長 3,860m 》 ※5か年の累計：19,990m
(内訳)

開設417m 改良1,530m 危険地対策250m 舗装1,663m

【今後の取組】

引き続き、木材生産や間伐等の森林整備の効率化を図るため、林道の整備・保全を推進します。



県営事業による林道開設



補助事業の改良による法面保護

2 農林水産の恵みを共有する社会の実現

(5) 活力ある農山村の実現



目指す姿 ⑧ 街道事業者の取組内容の紹介等 5か年で30箇所

農政課

【施策の趣旨】

「食と花の街道認定事業」の認定を受け、豊田市内で活動している「とよた五平餅街道」(認定団体：とよた五平餅学会)と「いなぶジビエグルメ街道」(認定団体：道の駅どんぐりの里いなぶ)の魅力を広く発信します。

【具体的な取組内容】

「とよた五平餅街道」と「いなぶジビエグルメ街道」の参加店舗を取材し、その情報を事務所のWebページに掲載しました。



大福魚苑の五平餅

【取組の成果】

《 取組内容の紹介 4箇所 》 ※5か年の累計：32箇所
(内訳)

- ・とよた五平餅街道 3箇所
のだみそ (枅塚西町)
大福魚苑(大ケ蔵連町)
しもやまの里 (大沼町)
- ・いなぶジビエグルメ街道 1箇所
青柳亭 (稲武町)



青柳亭のしし鍋

【今後の取組】

引き続き、食と花の街道認定事業を推進していきます。



「食と花の街道認定事業」は
「いいともあいち運動」活動の一環です



web ページは、二次元コード又は以下の URL から御覧ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/toyotakamo-nourin/syokuhanatoyotakamo.html>

目指す姿 ⑨ あいち森と緑づくり事業（里山林整備）実施箇所
における地域住民等による森林保全活動 5年後に43ha※

林務課

※2020年度：37ha ⇒ 5か年で6ha 拡大

【施策の趣旨】

県土や自然環境の保全、水源のかん養、洪水の防止などの森林が有する多面的機能を十分に発揮させるため、地域住民等による森林の保全活動を推進します。

【具体的な取組内容】

あいち森と緑づくり事業（里山林整備）により、森林の持つ多面的機能の発揮に向けた取組（間伐、竹林整備、管理道・管理歩道整備、排水施設整備等）を支援しました。

新たな事業要望地においては、地元説明会・現地検討会に参加し、事業実施後の里山林の保全活動の大切さを説明・助言して、地域住民等の理解促進に努めました。

【取組の成果】

《 地域住民等による森林の保全活動面積 50ha 》 ※5か年の拡大累計：13ha
(内訳)

新たに活動を開始した保全活動面積 1ha

2024年度までの保全活動面積累計 49ha



整備前



整備後

あいち森と緑づくり事業(里山林整備)で整備した森林(豊田市小渡町)

【今後の取組】

引き続き、説明会などを通して、地域住民等による森林の保全活動を推進します。

目指す姿 ⑩ 小中学生等による体験放流を通じた河川への理解
醸成 5か年で30件

農政課

【施策の趣旨】

内水面漁業の振興を図るため、小中学生等を対象とした体験放流を通じて、河川や魚類への関心を高め、理解醸成を進めていきます。

【具体的な取組内容】

管内の漁業協同組合が主催する小学生等を対象とした稚あゆの体験放流会の時期や内容について助言を行い、併せて体験放流会時に
出前授業（あゆの生態、愛知県で獲れる魚等の紹介）を実施しました。



出前授業

【取組の成果】

《 体験放流会実施 8件 》

※5か年の累計：42件

(内訳)

名倉川漁協	1件	(17名)
矢作川漁協	2件	(25名)
巴川漁協	5件	(103名)



あゆを放流する子どもたち

【今後の取組】

引き続き、漁協が開催する体験放流会を支援し、参加した小中学生等が河川や魚類への関心を高めて、理解醸成が図られるように助言・提案を行っていきます。



放流するあゆの観察・ふれあい

(6) 農山村の防災・減災対策の推進



目指す姿 ⑪ 農業用排水機場・排水路・ため池の耐震化等により守られる面積 5か年で451ha

建設課

【施策の趣旨】

巨大地震や集中豪雨等による自然災害から県民の生命・財産や暮らしを守るため、農村地域の防災・減災対策を推進します。

【具体的な取組内容】

たん水防除事業では、上郷2期地区で排水機場の更新整備を継続して実施し、市木川地区で実施設計を行いました。

防災ダム事業では、明知地区始め8地区のため池の耐震化工事等を行いました。

緊急農地防災事業（老朽ため池整備）では、切山池1号地区の改修工事を継続して実施しました。

【取組の成果】

《 地震や豪雨による浸水被害のリスクから守られた

面積 341ha 》 ※5か年の累計：479ha

(内訳) 切山池1号地区 6ha

阿知和池地区 23ha

椀貸池地区 24ha

上郷2期地区 288ha

※上郷2期地区は、供用を開始したため、実績に含めました。

【今後の取組】

引き続き市と土地改良区等関係者と調整しながら実施中の地区での事業推進と新規地区の計画作成を進め、耐震化等の整備を行っていきます。



耐震化工事を終えた多羅釜池
(防災ダム事業 明知地区 池の内側)



耐震化工事仮設進入路の施工状況
(防災ダム事業 徳間地区 池の内側)

目指す姿 ⑫ 枝下用水幹線水路の耐震化により守られる面積
5か年で231ha

建設課

【施策の趣旨】

巨大地震による枝下用水幹線水路の被災に伴う二次災害から県民の生命・財産や暮らしを守り、農業用水の安定的な供給を図るため、枝下用水幹線水路の震災対策を推進します。

【具体的な取組内容】

震災対策農業水利施設整備事業枝下用水地区及び枝下用水2期地区で用水路の耐震構造への全面改修工事を進めました。

また、枝下用水地区では高盛土部の地盤改良による耐震化工事を併せて実施しました。



枝下用水幹線水路の改修工事
(枝下用水地区)

【取組の成果】

《 巨大地震による枝下用水幹線水路の被災に伴う二次災害の被災リスクから守られた地域の面積 73ha 》 ※5か年の累計：369ha

(内訳)	枝下用水地区	37ha
	枝下用水2期地区	36ha



工事が完了し耐震化された枝下用水幹線水路
(枝下用水地区)

【今後の取組】

引き続き市及び土地改良区並びに地域住民の方等の関係者と調整しながら事業を推進し、枝下用水幹線水路の耐震化を行っていきます。

目指す姿 ⑬ 治山施設の整備により山地災害に対する防災
機能向上が図られる面積 毎年 127ha

森林整備課

【施策の趣旨】

巨大地震や集中豪雨等による自然災害から県民の生命や財産、暮らしを守るため、農山村地域の防災・減災対策を推進します。

【具体的な取組内容】

土砂の流出や山崩れなどの山地災害の復旧・予防を目的として、荒廃溪流には治山ダムを設置し、山腹崩壊地には土留工や法面工などの山腹工事を実施することで、計 25 箇所において治山施設を整備しました。

【取組の成果】

《 山地災害に対する防災機能向上が図られた
面積 123ha 》 ※5か年の累計：600ha
(内訳) 公共事業 105ha (7箇所)
単県事業 18ha (18箇所)



荒廃溪流に設置した治山ダム

【今後の取組】

今後も、山地災害の危険性が高い箇所について、治山工事を計画的に実施していきます。



人家近接の山腹崩壊地に施工した補強土工

IV 重点推進事項別の数値目標達成状況及び5か年の総括

重点推進事項別の数値目標達成状況

評価	区分	A	B	C
	達成率	100%以上	80%以上100%未満	80%未満

柱1：生産の柱

持続的に発展する農林水産業の実現

重点推進事項	目指す姿	2025 目標数値 (※は累計値)	2021	2022	2023	2024	2025	5か年 の実績 達成率	評価
			実績の推移						
			(目標数値が累計値の項目の括弧書きは年度実績)						
(1) 担い手の確保・育成	① 新規就農者の確保	毎年 15人	23	14	15	5	24	5か年平均 16.2人	A
								108%	
	② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成	毎年 12人	18	16	21	20	17	5か年平均 18.4人	A
								153%	
(2) 産地戦略による生産力 パワーアップ	③ 戦略を推進する 新たな取組と拡充	※ 5か年で 10件	4	(6)	(6)	(8)	(4)	累計 28件	A
				10	16	24	28	280%	
	④ 新技術及び優良品種 ・品目の導入	※ 5か年で 4件	2	(3)	(1)	(4)	(3)	累計 13件	A
				5	6	10	13	325%	
(3) 農業基盤整備 と地域営農の 推進	⑤ 施設の更新整備と 耕作放棄地の適切な 保全	つくば地区 ※ 5か年で 59ha	〈進捗率〉 〈48%〉	〈57%〉	〈67%〉	〈78%〉	〈90%〉	つくば地区 累計 0ha	C
			0	0	0	0	0	0%	
(4) 資源を生かす 林業の実現	⑥ 高性能林業機械に よる木材生産量	5年後に 40千㎡	38,640	35,700	39,800	40,500	46,000	2025年度 生産量 46千㎡	A
								115%	
	⑦ 林道整備・保全延長	毎年 3,100m	3,395	4,680	4,061	3,994	3,860	5か年平均 3,998m	A
								129%	

柱2：暮らしの柱

農林水産の恵みを共有する社会の実現

(5) 活力ある農山村の実現	⑧ 街道事業者の取組内容の紹介等	※ 5か年で30箇所	8	(7)	(6)	(7)	(4)	累計 32箇所 107%	A
	⑨ あいち森と緑づくり事業（里山林整備）実施箇所における地域住民等による森林保全活動	※ 5年後に43ha (2020：37ha)	(2)	(1)	(5)	(4)	(1)	累計 50ha 116%	A
	⑩ 小中学生等による体験放流を通じた河川への理解醸成	※ 5か年で30件	7	(9)	(8)	(10)	(8)	累計 42件 140%	A
(6) 農山村の防災・減災対策の推進	⑪ 農業用排水機場・排水路・ため池の耐震化等により守られる面積	5か年で※ 451ha	55	(34)	(49)	(0)	(34)	累計 479ha 106%	A
	⑫ 枝下用水幹線水路の耐震化により守られる面積	※ 5か年で231ha	108	(60)	(69)	(59)	(73)	累計 369ha 160%	A
	⑬ 治山施設の整備により山地災害に対する防災機能向上が図られる面積	毎年127ha	114	114	121	128	123	5か年平均 120ha 94%	B

5か年の総括

柱1：生産の柱

持続的に発展する農林水産業の実現

(1)担い手の確保・育成

目指す姿		評価	5か年の総括
目標	実績		
① 新規就農者の確保		A	新規就農者を毎年15人、5か年で75人確保する目標に対し、実績は5か年平均で年間16.2人、5か年で81人確保でき、目標を上回りました。 成果の要因として、就農希望者を対象とした就農説明会の開催、就農相談や就農計画作成に関する個別支援の実施、管内の農業研修機関の運営支援等が挙げられます。 引き続き、計画的な就農を支援して、農業の担い手を確保します。
毎年 15人	5か年平均 16.2人		
② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成		A	森林整備を担い得る技術者を毎年12人、5か年で60人確保する目標に対し、実績は5か年平均で年間18.4人、5か年で92人確保でき、目標を上回りました。 成果の要因として、人材確保のために関係機関と連携して実施した体験・見学会、技術者育成に向けて実施した研修や巡回指導の取組が挙げられます。 引き続き、森林整備を担う技術者の確保・育成に努めます。
毎年 12人	5か年平均 18.4人		

(2)産地戦略による生産力パワーアップ

③ 戦略を推進する新たな取組と拡充		A	産地戦略を推進する新たな取組と拡充を5か年で10件実施する目標に対し、実績は産地戦略の策定・見直し9件、補助金を活用した産地戦略の推進19件、計28件実施でき、目標を上回りました。 成果の要因として、産地戦略を適切な時期に見直し、あいち型産地パワーアップ事業を積極的に推進したことが挙げられます。 引き続き、産地戦略推進による農業生産力向上の取組を進めます。
5か年で 10件	累計 28件		
④ 新技術及び優良品種・品目の導入		A	新技術・優良品種・品目等の導入を5か年で4件実施する目標に対し、実績は13件実施でき、目標を上回りました。内訳は、新技術7件、優良品種6件（花きの品種登録申請2件含む）です。 成果の要因として、イチゴ栽培におけるICT（情報通信技術）の活用や水稻の高温耐性品種「なつきらり」の導入など、現場ニーズに即した技術・品種の導入支援が挙げられます。 引き続き、技術・品種・品目の導入支援により農業生産力向上を図ります。
5か年で 4件	累計 13件		

(3)農業基盤整備と地域営農の推進

⑤ 施設の更新整備と耕作放棄地の適切な保全（つくば地区）		C	つくば地区（受益面積59ha）において、施設の更新整備と農地整備に取り組んでいます。工事区域が複数箇所に及び、施工調整等により工期が延伸したことから、実績の計上については地区完了後に一括して行う予定です。 事業進捗率は90%であり、引き続き事業を進めて地区完了に努めるとともに、生産性向上に向けた農地整備により、耕作放棄地の拡大防止を図ります。
5か年で 59ha	累計 0ha		

(4)資源を生かす林業の実現

⑥ 高性能林業機械による木材生産量		A	高性能林業機械による木材生産量を2025年度に40千m³とする目標に対し、実績は46千m³となり、目標を上回りました。 成果の要因として、高性能林業機械活用により生産性が向上したこと、事業地の確保が進んだことが挙げられます。 引き続き、木材生産量を増やし、資源を生かす取組を進めていきます。
5年後に 40千m ³	2025年度 生産量 46千m ³		
⑦ 林道整備・保全延長		A	林道整備・保全を毎年3,100m、5か年で15,500m延長する目標に対し、実績は5か年平均で年間3,998m、5か年で19,990m延長でき、目標を上回りました。 成果の要因として、単独県費補助事業による支援等が挙げられます。 引き続き、林道の整備・保全により、資源を生かす林業を支えています。
毎年 3,100m	5か年平均 3,998m		

(5) 活力ある農山村の実現

目指す姿		評価	5か年の総括
目標	実績		
⑧ 街道事業者の取組 内容の紹介等	5か年で 30箇所	A	食と花の街道事業に参加している店舗等を取材して、事務所のWebページで5か年で30箇所紹介する目標に対し、実績は5か年で32箇所紹介でき、目標を上回りました。内訳は「とよた五平餅街道」20箇所、「いなぶジビエグルメ街道」12箇所です。回遊ルートを構成する店舗等の魅力を発信し、来訪機会の増加を図りました。
⑨ あいち森と緑づくり 事業（里山林整備） 実施箇所における 地域住民等による 森林保全活動	5年後に 43ha	A	地域住民等が行う森林保全活動面積を2025年度に43haとする目標に対し、実績は50haとなり、目標を上回りました。 成果の要因として、地元説明会や現地検討会への参加を通じて地域住民等の理解促進に努めたことが挙げられます。 引き続き、あいち森と緑づくり事業（里山林整備）を活用し、地域住民等が行う里山林の保全活動を推進していきます。
⑩ 小中学生等による 体験放流を通じた 河川への理解醸成	5か年で 30件	A	体験放流を5か年で30件実施する目標に対し、実績は5か年で42件実施でき、目標を上回りました。 成果の要因として、各漁協と体験放流に関する打合せを十分に実施したことが挙げられます。 引き続き、体験放流を通じた河川への理解醸成の取組を進めます。

(6) 農山村の防災・減災対策の推進

⑪ 農業用排水機場・ 排水路・ため池の 耐震化等により 守られる面積	5か年で 451ha	A	農業用排水機場、排水路及びため池の耐震化等による防護面積を5か年で451haとする目標に対し、実績は479haとなり、目標を上回りました。 引き続き、防災重点農業用ため池の整備を優先的に進め、災害時に安心・安全な県土づくりに努めます。
⑫ 枝下用水幹線水路 の耐震化により 守られる面積	5か年で 231ha	A	枝下用水幹線水路の耐震化による防護面積を5か年で231haとする目標に対し、実績は369haとなり、目標を上回りました。 引き続き、関係機関との調整を図りながら枝下用水の耐震化を進めます。
⑬ 治山施設の整備に より山地災害に対 する防災機能向上 が図られる面積	毎年 127ha	B	治山施設の整備により防災機能向上が図られる面積を、毎年127ha、5か年で635ha整備する目標に対し、実績は、5か年平均で年間120ha、5か年で600ha整備でき、目標をほぼ達成しました。 引き続き、荒廃山地及び荒廃溪流を安定化し、防災・減災機能向上に努めます。

総合評価

評価	区分	A	B	C
	達成率	100%以上	80%以上100%未満	80%未満
	件数	11	1	1

数値目標を設定した13項目の重点推進事項のうち、11件が目標を上回って達成し、A評価となりました。今後も、豊田加茂地域における「食と緑が支える県民の豊かな暮らし」の実現に向けて、取組を進めていきます。

農村型地域運営組織（農村 RMO）の取組について

農政課

【取組の趣旨】

豊田市の中山間地域に位置する敷島自治区（旧旭町内）では、人口減少や高齢化の進行により農業生産活動の維持が難しくなるとともに、地域住民同士の助け合いや困りごとの解決などの集落機能も低下して地域の活力が失われつつありました。

そこで、地域住民が主体となって農村型地域運営組織（農村RMO）「しきしまの家」を設立し、地域で支え合うむらづくりを推進して農地の保全、地域資源の活用、生活支援に関する実証に取り組んでいます。

【取組内容】

① 農地の保全について

農地を守り、農の営みを次世代へつなげていくため、生産者と消費者が経費やリスク、恵みを分かち支え合う地域支援型農業（C S A）の仕組みを「自給家族」と名付けて推進しています。

この取組では、安全でおいしいお米を安定的に確保したい都市部の消費者と数年単位の栽培契約を結び、「しきしまの家」が主催するイベント、田植え・稲刈り体験、草刈りなどに参加してもらいながら家族の様に絆を深めて、双方が幸せを感じることを期待しています。

なお、当地区で栽培するお米は、特別栽培米の「ミネアサヒ」です。



しきしまの家のミネアサヒ

② 地域資源の活用について

当地区では、高齢者が生産した野菜等を都市部のスーパーへ出荷する配送実証や地域共創で取り組むハラペーニョプロジェクト等、特色のある活動が行われています。

③ 生活支援について

地域独自のボランティアマッチングサービス「支え合いシステム」（有償）を運用し、草刈りなどの要望に応えています。

また、地域内で移動支援を行う「たすけあいカー事業」を活用し、買い物、通院のほか、農地への移動を支援して住民の日常生活や農業活動を支えています。

緑色LED照射によるシンビジウムのヤガ類防除

農業改良普及課

【取組の趣旨】

夏季の平均気温の上昇や夏日の増加により、シンビジウムの花蕾を加害する害虫であるヤガ類が急増しています。品質が低下するばかりでなく、被害を受けた蕾を除去する手間もかかります。花蕾に入ったヤガ類には農薬が直接かからないため防除が難しく、また、環境負荷低減の観点からも防除回数の増加は望ましくありません。

農業改良普及課ではフェロモン剤でヤガ類を誘引・捕殺して発生量の増減を把握しつつ、山下げ後のシンビジウム出荷株へヤガ類に忌避効果があるとされる緑色LED光を照射して防除効果を検証する取組を支援しました。

※ シンビジウムは夜間の高温が続くと生長の遅れやつぼみの落下（花飛び）を生じるため、6月下旬頃に「山上げ」して涼しい気候のほ場で管理し、10月中旬頃に平地のほ場へ「山下げ」して11月上旬頃から出荷を始めます。

【取組内容】

山下げ後の10月中旬から12月下旬の間、緑色LEDを日没から日の出まで照射し、無照射と比較しました。ヤガ類の発生量は、山上げほ場では平地ほ場より少なく、平地ほ場では9月下旬と10月下旬に発生のパークがありました。

こうした状況下において緑色LED光照射により、シンビジウムの品種「黄蝶遊々」では、ヤガ類による被害株率が3.4%低減しました。検証農家は、緑色LED光照射がヤガ類の防除に有効であることを確認し、環境負荷が小さい防除方法と評価しました。



緑色LED 日没頃の点灯状況



緑色LED 夜間の点灯状況

【今後の展開】

農業改良普及課は、引き続き、緑色LEDの効果的な設置位置や台数の検討、他品目での検証によりヤガ類防除の取組を支援します。

豊田市内の小学校で枝下用水の出前授業を実施しました

建設課

【取組の趣旨】

豊田市南部地域に農業用水を供給する枝下用水の歴史や役割を豊田土地改良区と連携し、枝下用水近隣の童子山小学校の児童に伝え、食料生産における農業用水の大切さ、施設管理の重要性のほか洪水防止機能など枝下用水が持つ多面的な機能や効果について啓発を図りました。

【取組内容】

豊田市内の小学校では、社会科の教材の一つとして「枝下用水」を扱い、私財を投じて用水の築造に尽力した近江商人・西澤真蔵の功績を中心に教えています。

このため出前授業では、枝下用水が農業用水としての役割だけでなく、防災機能をはじめ、人々にやすらぎやうるおいの場を提供するなど多面的な機能を持つことについて説明しました。

また、実際に枝下用水路の中を歩いて、用水への理解を深めました。

【今後の展開】

枝下用水の歴史や役割を伝えることで、農地や農業用施設が持つ多面的な機能や効果への理解が深まります。出前授業は、こうした農業への理解促進に大変効果的であるため、今後も継続して実施していきます。



童子山小学校における出前授業



用水路の中を歩いている様子

あいち木づかいフェアを開催しました

林務課

【取組の趣旨】

愛知県の森林・林業、木材利用について、身近に感じてもらうためのPRイベントを11月15日（土）にイオン三好ショッピングセンターで開催しました。

【取組内容】

① 木工体験（丸太切り、丸太絵付け）

豊田市産ヒノキの間伐材を活用し、丸太切りや輪切りにした丸太に絵を書く体験を実施しました。

木材に触れて加工する体験を通じて、森林整備や木材利用への理解・関心を高めました。



丸太切り

② 木製遊具（積み木、ビー玉コロコロ）

愛知県産材のスギ・ヒノキで作られた積み木とビー玉コロコロを設置し、子供たちが木のぬくもりに触れて自由に遊べる場を設けました。



木製遊具

③ 林業就業案内コーナー

林業への就業案内や林業見学ツアー募集パンフレット、木材利用施設の事例を紹介するパネルを展示しました。また、案内コーナーのモニターで「あいちの森林で働く」、「伐木競技会」の動画を上映し、森林・林業をわかりやすく紹介しました。



林業就業案内コーナー

④ 林業なりきり記念撮影

林業の仕事を身近に感じてもらうため、林業従事者が日頃使用している機械や作業着を来場者が実際に身に付けて記念撮影を行う体験コーナーを設けました。



林業なりきり記念撮影

⑤ その他

「森ずきんちゃん」※が登場してイベントのPRを行いました。

※ 森ずきんちゃん：あいちの森と緑のマスコットキャラクター

林業現場における安全確保と迅速な救助体制の強化のため
消防署と連携し、レスキュー訓練を実施しています

森林整備課

【取組の趣旨】

林業現場で労働災害が発生した際に、林業従事者が迅速かつ適切な救助対応を行えるよう、2023 年度から豊田市消防本部足助消防署と連携し、林業経営体を対象としたレスキュー訓練を実施しています。林業特有の災害リスクに対応するため、現場での応急対応能力や救助体制の強化を図るとともに、蜂毒アレルギー対策や救急搬送体制の充実に取り組んでいます。

【取組内容】

2025 年度は、林業経営体 5 社 22 名が参加し、蜂毒アレルギー講習会とレスキュー訓練を実施しました。講習会では医師を講師に招き、アナフィラキシーショックへの対処方法やエピペンの使用方法について学びました。レスキュー訓練では、119 番通報、応急手当、救急隊への引継ぎまでを実際の電話回線を使用して訓練しました。また、足助消防署が林業従事者向けの応急手当資料を作成・配付するとともに、林業現場における救急車両の進入経路や緊急時の集合場所について現場確認を行いました。これらの取組により、参加者の安全意識や緊急時対応能力の向上が図られたほか、実効性の高い救助・搬送体制の構築につながりました。



蜂毒アレルギー講習会



レスキュー訓練

【今後の展開】

足助消防署が策定した 3 か年計画に基づき、訓練内容のさらなる充実に努めていきます。2026 年度は教養資料を活用した基礎知識の習得と事故想定訓練、2027 年度は経営体単位での応用訓練を実施し、災害対応能力のさらなる向上を目指します。今後も消防署と連携し、林業現場における安全確保と迅速な救助体制の強化を推進していきます。

いいともあいち運動のシンボルマーク

愛称は **あいまる** です！



食と緑の豊田加茂地域レポート2026

愛知県豊田加茂農林水産事務所農政課
〒471-8566 豊田市元城町4-45 豊田加茂総合庁舎内
電話:0565-32-7363(内線3211)

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/toyotakamo-nourin/>